

製品名: GABARAP (11T4) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe11243**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200
分子量	14kDa

抗原情報

遺伝子名	GABARAP
別名	GABARAP; GABARAPL1; GABARAPL2;
遺伝子 ID	11337.0
SwissProt ID	O95166
免疫原	ヒト GABARAP の合成ペプチド

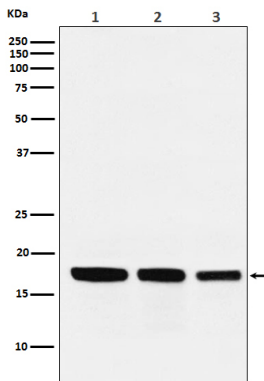
背景

GABARAP はカルボキシル末端で切断され、リン脂質であるホスファチジルエタノールアミンまたはホスファチジルセリンのいずれかによって抱合されます。この処理により、GABARAP はI型から膜結合型II型へと変換され、オートファゴソームの生成に関与します。GABARAP のプロセッシングには、Atg4 ファミリーメンバーによる切断と、それに続く E1 および E2 類似酵素である Atg7 および Atg3 による抱合が関与します。GABA(A)受容体の細胞内輸送および細胞骨格との相互作用において役割を果たすユビキチン様修飾因子です (PubMed:9892355) 。オートファジーへの関与: LC3 はファゴソーム膜の伸長に関与する一方、GABARAP/GATE-16 サブファミリーはオートファゴソーム成熟の後期段階に必須である (PubMed:15169837、PubMed:20562859、PubMed:22948227) 。GABARAP/GATE-16 サブファミリーは、小胞体ファジー受容体 TEX264 との相互作用を通じて、栄養ストレス下で小胞体のサブドメインをオートファゴソームへとリモデリングする。その後、オートファゴソームはリソソームと融合し、小胞体のターンオーバーを促進する (PubMed:31006538) 。CUL3(KBTBD6/7) E3 ユビキチンリガーゼ複合体の局所的活性化にも必須であり、RAC1 および下流のシグナル伝達を活性化するグアニルヌクレオチド交換因子 (GEF) である TIAM1 のユビキチン化および分解を制御します (PubMed:25684205) 。これにより、細胞骨格の構築、細胞の移動および増殖を含む様々な生物学的プロセスを制御します (PubMed:25684205) 。アポトーシスにも関与します (PubMed:15977068) 。

研究分野

-

画像データ



(1) HepG2 細胞溶解物、(2) マウス腎臓溶解物、(3) ラット心臓溶解物における GABARAP 発現のウエスタンブロット解析。